派遣専門家オリエンテーション資料

セント・ルシア

Saint Lucia

任国情報

1995年

JICA LIBRARY
1124507[3]

国際協力事業団

国際協力総合研修所

JICA
C620
20
NC
LIBRARY

セント・ルシア
国際協力総合研修所

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびＪＩＣＡ役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家等ＪＩＣＡ関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成７年３月
国際協力事業団
国際協力総合研修所長

1124507 [3]

目次

I 概　　況 1
II 生活事情 6
1. 食生活 6
2. 衣　　料 9
3. 住　　宅 11
4. 医　　療 14
5. 教　　育 19
6. 家庭の使用人 22
7. 交通事情 23
8. 通　　信 26
9. マスコミ 28
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ 30
11. その他のサービス 34
12. 観　　光 36
13. 治安、緊急時の心得 39
14. 出入国手続および帰国手続 40
15. 私財の輸送、引き取り、購入 43
16. 社　　交 46
17. 任国官公庁 47
18. 在外日本関係機関など 48
19. 地方都市 49

＊本文中のフランス語等の表記はすべて省略しています。

I 概　況

表1：セント・ルシア概況

a) 正式国名	(和文) セント・ルシア (英文) Saint Lucia
b) 独立年月日 旧宗主国	1979年2月22日 イギリス
c) 政　体	立憲君主制
d) 元首の名称	英国女王エリザベス2世 首相：ジョン・コンプトン (John Compton)
e) 位置・面積	北緯13度45分～14度、西経61度 616平方キロメートル
f) 首　都	カストリーズ (Castries)
g) 総人口	14万人 (1993年)
h) 民族等	アフリカ系黒人66%、ムラート (白人と黒人の混血) 30%、 インド人4%、白人0.1%
i) 公用語	英語
j) 宗　教	カトリック、ほかに英国国教
k) 暦	＜日本との時差＞ －13時間 ＜祝祭日＞ (1995) (注2) 1月1～2日　新年 ＊2月6～7日　カーニバル 2月22日　独立記念日 ＊4月14日　聖金曜日 ＊4月17日　イースター・マンデイ 5月1日　メーデー ＊6月3日　英国女王誕生日 ＊6月5日　聖霊降臨祭の翌月曜日 6月15日　キリスト聖体祭 ＊8月7日　バンク・ホリデー ＊10月2日　感謝祭 12月13日　ナショナルデー 12月25日　クリスマス 12月26日　ボクシングデー (＊は毎年日が変わる祝祭日)

出所　World Development Report　1995　The World Bank
The Europa World Year Book 1995 Europa Publications Limited

（1）国土の概要

セント・ルシア島は、北部の比較的古い火成岩質の部分と中央部の少々若い火成岩とから成っており、両地域の地表は対照的な様相を呈している。北部は第三期を通じての浸食のため平坦化し、せいぜい500m程度の標高となっているのに対し、中央部は典型的な急峻山岳地形であり、無数の河川によって深く刻まれている。最高標高は、国内第二の都市スーフリエールの東部にあるギンビー山（950m）であるが、スーフリエール市真南海岸にある砂糖塊状（Pitonとよばれる）のGrand Piton（798 m）及びPetit Piton（736 m）の奇観はカリブ海地域でも他に例を見ない自然地形であり、大きな観光資源となっている。なお、島の南部は、北部、中央部の火山性地形とは異なり、河川が運んできた土砂の体積による沖積性海岸平野となっており、低い丘陵がわずかに点在しているにすぎない。最南端には砂州でつながれたMoule a Chique半島が突出しており、標高222 mの隆起がある。

スーフリエール市のすぐ内陸部には規模の大きな火口から噴出する硫黄泉があり、観光資源であるとともに、地熱発電にも利用されている。

（参考文献）

『セント・ルシア概況』 1995 外務省

（2）気候

年間を通じての北東貿易風により、年平均気温は26℃とほとんど季節変化のないものとなっている。しかしながら、地形に基づく標高の違いによる気候変化は大きなものがある。高標高地は海岸部に比して明らかに気温が低く、降雨量がかなり大きくなる。山地での年間降雨量は、平均3,800ミリであるのに対し、南・北の海岸部では平均1,160ミリと3分の1以下である。

（参考文献）

『セント・ルシア概況』 1995 外務省
The Europa World Year Book 1995 Europa Publications Limited

（3）人口

セント・ルシアの人口は、1993年現在14万人である。首都カストリーズの人口は4万9千人である。

（参考文献）

『世界年鑑』 1995 共同通信社
『ラテン・アメリカ事典』 1989 ラテン・アメリカ協会

（4）略史

表2：セント・ルシア略年表

年	出来事
1650年	フランス人が入植に成功、原住民カリブと平和協定を結ぶ。
1814年	英領植民地となる。
1858～62年	英領西インド連邦加盟。
1967年	英国自治領となる。
1979年	独立。

出所 『セント・ルシア概況』 1995 外務省
『ラテン・アメリカを知る事典』 1990 平凡社

（5）民族等

住民の大半は黒人とその混血が97%を占め、3%が白人である。

(参考文献)

『ラテン・アメリカを知る事典』 1990 平凡社

（6）言語

公用語、日常語は英語であるが、かなりの国民がパトア（フランス語の方言の一種）を話す。

(参考文献)

『セント・ルシア概況』 1994 外務省

『ラテン・アメリカ事典』 1989 ラテン・アメリカ協会

（7）宗教

フランスによって布教されたローマ・カトリックが今日国民の大部分に信仰されている。その他、英国国教会などがある。

(参考文献)

『ラテン・アメリカ事典』 1989 ラテン・アメリカ協会

『ラテン・アメリカを知る事典』 1990 平凡社

（8）文化

セント・ルシアの文化は、150年間にわたり支配してきたフランスの文化を基礎に育まれてきたが、今日ではこうした環境の中から新しい文化が芽生えつつある。詩人兼劇作家のRoderick Walcott（1930年生まれ、米国ボストン大学にて教鞭を執っている。代表作は1972年の『Banjo Man』）がノーベル文学賞を受賞。絵画のDunstan St. Omerなどは代表的な存在。また、歌、工芸作品にもみるべきものがある。

(参考文献)
『ラテン・アメリカ事典』 1989 ラテン・アメリカ協会
『セント・ルシア概況』 1995 外務省

(9) マス・メディア

植民地時代に英語とフランス語（方言も含む）の両方で発達してきた。特にラジオは普及率が非常に高い。また、独自の通信社はない。

1) 新聞

新聞の発行は首都カストリーズに集中している。主要紙としてはThe Voice of St. Lucia（週3回）、The Crusadar（週刊）、The Vanguard（隔週刊）などがある。

(参考文献)
The Europa World Year Book 1995 Europa Publications Limited
『世界のメディア』 1987 教育社

2) 放送

ラジオ放送局としては、Radio Caribbean Internationalが英語とクレオール語（フランス語の方言の一種）で24時間放送を行っている他、Radio Koulibwi、Saint Lucia Broadcasting Corporation、Radio Saint Luciaがある。

テレビ局は、Cablevision、Daher Broadcasting Service、Helen Television Systemの3局がある。

また、1992年においては10万4000のラジオ受信機、2万6000のテレビ受信機が使用されている（Europa社資料、1995)。

(参考文献)
The Europa World Year Book 1995 Europa Publications limited

表３：経済指標［セント・ルシア］

1) 主要経済指標の推移	年	(1992)	(1993)	(1994)
	ＧＤＰ（百万東カリブドル）（注１）	1,060.3	N.A.	N.A.
	一人当たりＧＤＰ（ドル）（注２）	1.6	6.6	3.1
	ＧＤＰ年平均成長率（%）（注１）	7.0	3.6	N.A.
	消費者物価上昇率（%）（注１）	5.1	0.8	N.A.
	貿　易（百万ドル）（1993年）（注１）	貿易収支：　-144 輸出額 (f.o.b.)：119.74 輸入額 (f.o.b.)：-264		
	経常収支（百万ドル）（注１）	-51	-42	N.A.
	対外債務残高（百万ドル）（注４）	97.6	101.2	N.A.
	債務返済比率　(%)（対GNP）（注３）	N.A.	N.A.	N.A.
	外貨準備高（百万ドル）（注３）	N.A.	N.A.	N.A.
2) 通貨 1995年12月15日現在　（注５）	通貨単位：東カリブドル １ドル　＝2.7000　東カリブドル			
3) 会計年度	４月１日～３月31日			

出所　（注１）International Financial Statistics Yearbook　1995　IMF

（注２）The Europa World Year Book　1995　Europa Publications Limited

（注３）World Development Report　1994-1995　The World Bank

（注４）World Debt Table　1994-1995　The World Bank

（注５）東京銀行調べ

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食　料

(1) 一般事情

島のほぼ全域においてプランテーション栽培が行なわれており、穀物や野菜などはわずかに作られる程度である。酪農は南部ビューフォート方面で小規模に行なわれてはいるが、農業同様、輸入に依存している。魚介類も自給率は50%にとどまり、不足分は近隣諸国または北米方面から輸入されている。

輸入食料品は冷凍肉類をはじめ缶詰、乾物類、飲料、調味料で品数は豊富に出回っている。生鮮野菜、果物などは空輸によってアメリカのマイアミ方面から入ってくるが、品切れになることも多い。魚介類の種類も多くはない。

街には欧米風の商店、スーパーも多く、日本食料品にこだわらなければ問題はない。商品の衛生面については、露店行商品を除けば清潔で先進国並みである。

(2) 主な食料の出回り状況

米――白米の国産は全体消費量からみて数パーセントにすぎず、ほとんどガイアナ、スリナム方面からの輸入であり、これらを称してカリビアンライスと呼んでいる。その他はアメリカやメキシコから少量輸入されている。街のスーパーや小売店で1キログラムまたは2キログラムの袋詰めで売られている。値段は、カリビアンライスが1キログラム2.5ＥＣドルに対し、アメリカンライスおよびメキシカンライスは4倍の高値が普通である。

パン――種類は比較的豊富である。パン専門店はないが、食料品店、スーパーで売られており、焼きたてを好む場合は昼頃に行くとよい。値段も安く、食パン1本が3.2ＥＣドルである。現地風にアレンジしたココナツ入りロールパンのほか、インド系の店では特有の焼きパン（1枚0.5～1ＥＣドル）なども多く売られている。

肉類――肉専門店はないが、卸問屋またはスーパーに行けば好みの肉類が手に入る。

魚類――冷凍品はスーパーや食料品店でも売られているが、各商店へはカストリーズ市運営の魚市場から出荷されている。少し買い出しに時間はかかるが直接市場に出かけた方が安く手に入る。また魚市場は地元の漁船が発着する船着き場にあるため、新鮮な魚をその場で買うことができる。乾季の10～5月にはカツオ、キメジ、サワラ、シイラなどの遠洋ものからトビウオ、小アジ、底物魚などが獲れ、雨季の6～9月には魚種は少なくなり、サヨリ、小アジ、底物魚などが出回る。また魚市場直販の冷凍魚は流通段階での管理方法からカツオ、キメジ類など解凍すると刺し身にはあまり適さない。輸入物は塩ダラ、てんぷら用エビ類、小イカおよび小魚で、値段は肉より高めでポンド当たり5～8ＥＣドルが普通である。入荷した時、多めに買っておかないと品切れになる。

調味料――アメリカ製調味料が中心で、だいたい間に合う。

食用油――国産のココナツ油のほか、輸入物はコーン油、オリーブ油など2～

3種ある。

酒類――洋酒は種類も多く、品切れになることはない。ワインなども欧米産が揃っている。ビールはポーランド系メーカーによって現地生産されたHeineken、カリビアンビールが3種類ほど売られている。いずれも小瓶入りで、アルミ缶入りはない。値段はジョニウォーカー黒ラベル750ミリリットルが54ＥＣドル、ビールが2.5ＥＣドルと日本よりやや安い。

飲料水――水道水またはタンクの水を沸騰させて冷やしたものを飲料としているが、スーパーには瓶入りミネラルウォーターも販売されている。清涼飲料はコーラ、ペプシ、スプライト、果実ジュースのほか現地産ジュースなど品数は多い。

(3) 食料の入手

日本食料品――市内の大型スーパーにキッコーマンしょうゆが少量出回ることがあるが、ほとんど入手できない。確実に入手したい場合は、アメリカのマイアミまたはトリニダッド・トバゴにある日本人経営のリトル東京店（インスタント食品中心で、品数は少ない）へ買い出しに行くこと。

魚介類――現地では季節によって水揚げされる魚種が異なり、その数量も少ないので、新鮮な刺し身の材料には苦労する。伊勢エビやウニなどは解禁制漁業なので、水揚げ量もわずかで、ホテルに流れてしまい一般の消費者に手に入らない。

野菜類――需要が伸びるにつれ輸入物が小刻みに入ってくるようになった。1994年8月にマーケットの新施設が完成し、青空市場はすべて屋内に移転された。

雑貨、菓子類――小売店でも売っているが、品揃えの面からスーパーが買いやすく便利である。すべて輸入品である。

持参したい食料品――日本人が好む米はまったく手に入らないので、定期的にアメリカから送ってもらうことをすすめる。そのほか、好みの食料品または調味料、日本茶、乾物、海藻などできるだけ持参するとよい。雨季でも比較的乾燥しているので、食料品の保存に気を付ける必要はない。

1-2 食器・調理器具など

(1) 食器・調理器具などの入手

陶器や食器専門店は多く、ヨーロッパ方面のブランド店もあり、一般的に品質は悪くない。安価に手に入るので無理して日本から持参する必要はない。

家庭用電気製品は、冷蔵庫をはじめトースター、ミキサー、電気釜もアメリカ製品を主として揃っている。電源は220ボルト、60サイクルで三相、差し込みは家庭によって丸ピン型または平型と違うことも多いが、これらの器具・部品は簡単に入手できる。日本から110ボルトの電気製品を持参した場合は変圧器が必要である。しかし、これも現地調達が可能なので持参する必要はない。

調理器具、鍋類（ホーロー製品を含む）、フライパン、中華鍋、フライ返し、おたまの類いまで結構揃っているので、これらは現地で買った方が経済的である。スプーン、フォーク、ナイフも上級品から一般品まで好みに合わせて専門店で手に入る。まな板や包丁も、使いやすさの点からみると少々難点はある。現地で購入することも可能である。

(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

使いやすさ、刃の切れ具合などから、包丁は種類を問わず菜切り、魚おろし、刺し身用、肉用とセットで持参するとよい。そのほか、すりばち、すりこぎ、おろし器、急須、湯飲み茶わん、おわん、はし、菜ばしなど料理用小道具も持参した方がよい。また、ポットは携行用の小型サイズのものは多いが、家庭用の1.8リットル型はないので、弁当箱などといっしょに持参したほうがよい。

なお、電気製品が壊れた場合、テレビや冷蔵庫以外は修理不可能である。

1-3 外　食

(1) 飲食店

市内には大衆食堂が数軒あるが、これらは勤め人を対象としたランチ専門店で、外国人向けでない。喫茶店はなく、Cunard Hotel (La Toc Hotel)、Green Parrot、Vigie Hotelなど近くのホテルを利用することになる。郊外に出ればステーキハウス2軒、中華料理店1軒、レストラン3軒と数は少ないが営業している。飲食の課税は15%である。注意する点は、冷水に少しでもにおいのある時は、生水を使用していると考えて飲まないことである。

昼時間は12:30～13:30で、ホテルによってはこの1時間に限って注文した飲み物をダブルにしてサービスするところもある。精算する時ウエートレスにチップを渡す人もいるが、これは慣習化したものでなく特に必要ない。

(2) その他の飲食店

該当情報なし。

2. 衣　料

2-1 衣　料

(1) 一般事情

セント・ルシアは熱帯性気候で、大西洋岸から吹きつける北東貿易風で暑熱はやわらげられるものの、乾季、雨季を問わず気温は24～30℃である。特にひどく蒸し暑いのは季節の変わり目にあたる７～10月で、室内にじっとしていても汗がにじみ出る毎日が続く。よって、日常生活では夏物用の衣類を多く必要とし、夜具も十分な対策が必要となる。

衣料品店は多く、希望に近い衣類が手に入る。アラブ系の商店では反物を多く用意し、縫製注文も受け付けている。ワンピース１枚1,200円ぐらいである。既製品は混紡製品が多い。ブティックなどではイギリス製の商品を揃えている。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

男性用――サイズの面からシャツ類、靴下などである。

女性用――ブラジャー、ストッキング、下着類などである。

子供用――子供用衣類は中国製品が主流で品数も少ないので、靴類もあわせ持参するとよい。

そのほか、パジャマなどは大人、子供用とも用意した方がよい。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

Ｔシャツや夏物のショートパンツなどは品数も多く、安価である。また、欧米のファッションが直接入って来る。

靴屋は専門店のほか、一般の商店でもコーナーを設けるほど数が多い。特にスポーツシューズはメーカー品も揃っているので、好みに合わせて選ぶことができる。メーカー品の価格は、日本とほぼ同じである。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-2 礼　装

(1) パーティ

パーティにもホテルを会場にするもの、ホームパーティに類するものといろいろあるが、その場に適した服装を考慮すべきである。一般にホームパーティに呼ばれた場合、形式にこだわることはなく気ままな服装でよい。ホテルを会場にする場合は、男性は背広にネクタイ、女性はドレスが一般的である。従って、女性にとっては礼装の準備は欠かせない。

(2) 式　典

男性は背広にネクタイ、女性はワンピースで特に和服などにこだわることはない。

(3) その他の冠婚葬祭

日本に準じればよいが、一般に結婚式、披露宴はむしろ日本より派手で、招待された側が服装を控えめにするようなことはない。

葬儀は黒系統か地味なものが好ましい。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗　濯

クリーニング業者は3軒と少なく、そのなかでも注文、配達まで手がける業者はCaribbean Dry-cleaning店1軒で、背広1着の仕上げに4～5日かかる。しみのついた衣装の場合は、前もっていっておいた方がよい。全体的に仕上げもよく、技術は洗練されている。しかし、自分で洗えるものはできるだけ自分ですませる方が無難である。

電気店にはアイロンおよびアイロン台の種類も多い。価格はスチームや温度調節のついたもので200ＥＣドルとやや高いが、種類は選べる。

電気洗濯機はアメリカ製品が多く、全自動から2槽式まで好みのタイプを自由に選べる。上級賃貸住宅の場合は備え付けられている家が多い。備えつけられていない場合でも、家主に交渉すれば大抵の場合、つけてもらうことができる。

(2) 仕立て、修繕

仕立ての注文はブティックや生地を売っている店で受け付けている。店によっては欧米人がアドバイザーとして働いている。男性用、女性用を問わずよい店を口コミで知ることである。注文から仕上げまで、平均してワンピースで7～10日かかる。縫い直しや修繕は、個人経営店で受け付けている。ゆとりをもって注文すること。

(3) 保　管

雨季といっても日本のようにじめじめした天気が何日も続くことはなく、衣服のかびに悩むことはない。必要なことは、ときどき陰干したり、ナフタリンなど防虫剤を切らさないことである。

3. 住　宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

冬季には観光客が押し寄せる。とりわけ、11～4月は長期滞在者が非常に多い。その多くがアパートや一戸建て住宅を契約するので、この時期は毎年空き家がないほどである。しかし、この時期を除けば好みの家がだいたいみつかるので、場合によっては仮住まいをして待つのもひとつの方法である。

融資制度を設けるなど政府の支援により、住宅難は予想を上回るスピードで解消されつつある。貸家のニーズがある程度満たされたことで以前のような競争的値上げはやわらぎ、家賃は横ばい傾向に入っている。しかし、新住宅は高級化趣向が強く、家賃は1ヵ月4,000～8,000ＥＣドルと高くなっている。

また、市内近郊に土地がなく開発地が北部のロドニーベイ方面に移ったことに伴い長期滞在者も新住宅地へ移転し始め、市内の中古貸家が人気薄となっている。このロドニーベイ界隈は治安がよく、入江に面した静かで環境のよいところである。ただし、買い出しや通勤、通学に多少不便である。

住宅の種類はアパートおよび一戸建てで、西欧風の庭付き3DKが主流となっている。アパートといっても、2階建ての家を1階と2階で分けて住むのが当地の人が好むタイプのひとつである。階下は完全に独立しており、掃除も大家がしてくれる場合もある。賃貸の対象は、観光客および長期滞在者である。そのため、家具一切、冷蔵庫、食器などすべて準備されており、食料さえ持ち込めばその日から生活できる家も多い。

一般的契約条件は、権利金として1～2ヵ月分の前払いが必要で、支払いに米ドルを要求する家主や不動産業者は殆どない。

(2) ホテル事情

カストリーズ市内および近郊には大小ホテルが20以上あり、観光リゾートとして栄えている。高級ホテルもいくつかあるが、なかでも日本人がいちばん利用するのはCunard Hotelで、カストリーズ湾入口の南に面している。シーズン中は高級ホテルほど予約が必要で、オフシーズンになるとどこも空室が目立つ。また、シーズンに入るとホテル料金は通常料金の30～40%値上がりし、そのうえ税金が15%加算されるので、チェックインの時に確認しておくこと。

ホテルの一般な料金は次の通りである。

Royal Saint Lucia
電話：452-9999
料金：300ＥＣドル
Cunard Hotel
電話：452-3081/9
料金：230ＥＣドル
Tapion Reef Hotel
電話：452-7470/2
料金：75ＥＣドル

Green Parrot
電話：452-3399
料金：180 ＥＣドル
Halycon Beach Club
電話：452-5331
料金：165 ＥＣドル
New Vigie Beach Hotel
電話：452-5211
料金：140 ＥＣドル
East Wind Inn
電話：452-8212
料金：190 ＥＣドル
（注）料金は、ツインルームの値段である。

(3) 住宅の探し方

口コミ、新聞広告、不動産業者による方法がある。代表的な不動産業者は、次のとおりである。

Julian R. Hunte Ltd.
Real Estate Services　（TEL：452-4343）

すでに述べたように、シーズン中に好みの物件を探すのは骨が折れるが、仮住まいをしてあせらずよい物件が出るまで待つのも一方法である。

(4) 住宅の選定上の留意点

家賃が適当額で建物および環境が整っていれば申し分ないことであるが、すべての条件を満たす家はあまりない。したがって、通勤・通学の便、買い出しに必要なマーケットが近いかどうか、建物内部の安全性、給水、下水設備、メンテナンスが行き届いているか、また土地条件によっては日射、通風環境など全体的に考慮する必要がある。

安全性については、孤立している建物や、さびしい地域は避けること。玄関や勝手口など外に通じるドアが丈夫にできているか、内錠が二重、三重構造になっているかは重要なチェックポイントである。また、各窓が防犯構造になっているかもチェックすること。近所とのコミュニケーションを保ち、非常ベルの設置なども考慮するとよい。エレベーターのついた大型アパートやマンションタイプのものはないが、地震や火災時の避難についても考慮しなければならない。

水道については、水道設備、自前給水タンクがあるか、下水問題はないかなどひとつひとつ確かめる必要がある。高台に位置する場所は水道の圧力が弱く、特に朝夕の消費時間帯などは苦労するので注意すること。

電話の有無は非常に重要な点である。なければ大家に交渉するか、自ら申し込んでできるだけ早くつけること。

一部の公立学校ではスクールバスを運行しているが、私立校などの場合は一般のバスを利用することになる。一般のバスは不定期ではあるが、どこの路線も本数は多い。

家賃は、所在地、住宅の大きさ、築年数、家具の有無で決まっているが、築3年以内を対象とすると標準家具付きの場合、月額4,000～6,000E Cドルが普通である。物件が古くなると、同じ条件でも10～30%値下げされている。備え付けの家具についても、高級住宅では調度品、テーブル、いす、応接セット、ベッドに至るまで相当高価な品が備えつけられており、外観からは査定の対象とならないこともある。

そのほか、暑い国なので害虫や蚊対策、冷房の有無なども考慮すること。

(5) 住宅の契約

契約には、不動産業者を通すものと、家主と直接契約するものがあるが、いずれも文書で行なわれる。期間は、特別な事情がない限り、契約者側の希望年数が受け入れられる。更新にあたっても値上げなどの慣習はない。契約成立時には1～2ヵ月分の権利金を支払うのが一般的である。支払い方法は、相手側の銀行口座に毎月振り込むか、現金支払いかのいずれかである。

家具類や電気などの修理が必要な場合、どちらが負担するかなどを決めておく必要がある。また、途中で契約を解除した時、どんなペナルティーが科せられるか、できれば文書で確認しておくとよい。

そのほか、前任者の分まで負担しないためにも、入居時のメーター（電気、水道、ガス）チェックは忘れないこと。

(6) 電気、ガス、水道などの手続と管理

個人で電話の申請をすると取り付けまで時間がかかるので、仲介者を通じて申し込むことをすすめる。また、申請の際ダイヤル直通にすると、規定料金は多少高くとも日本との交信も交換手を通さずにすみ便利である。

公共料金の支払いについては、新規の契約者に直接請求書が送られてくるのが普通である。請求書には必ず支払い期日が明記されている。郵便事情で遅れて届く場合もあるので、支払い期日に遅れないよう注意が必要である。支払いは窓口で現金か小切手で行う。電話や電気の場合、1週間滞納しただけで自動的に切られた例は多いので要注意である。

(7) その他

4. 医　療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

特に指定された予防接種はなく、また最近特定の伝染病が流行した例もない。しかし、熱帯性気候であることと観光客の出入りが多い国であることから、学童に関しては3種混合の追加接種、風疹、はしかなどの予防接種はしておいた方がよい。着任後、現地でも予防注射をすることはできる。番犬として犬を飼う家庭が多いので、狂犬病および肝炎についても用心した方がよい。

(2) その他の準備

眼鏡は入手が可能であるが、コンタクトレンズは入手困難である。したがって、予備も含め準備すること。

歯科治療については、外国人開業医もおり、予約制で治療は比較的丁寧である。しかし、治療はできるだけ日本ですませてくることをすすめる。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

カストリーズの医療機関は、次のとおりである。

＜国立総合病院＞

Victoria Hospital

住所：Hospital Rd., Castries

電話：452-2421

診療科目：全科

＜上記診療所＞

Bexon

電話：452-1261

診療科目：病気によって総合病院に回される。

Boguis

電話：453-5341

診療科目：病気によって総合病院に回される。

La Clery

電話：452-4303

診療科目：病気によって総合病院に回される。

Marchand

電話：52-2288

診療科目：病気によって総合病院に回される。

＜開業医、クリニック＞

Suri J K. Dr.

住所：Walcott Bldg., Jeremie St. Box 1102

診療科目：内科、小児科、耳鼻咽喉科、胃腸科

電話：452-4284

King O. Dr. Hon

住所：3 Hight St., Castries
電話：452-1155
診療科目：外科
Didier Martin Dr. Sans Soucis
電話：453-0900
診療科目：心臓外科
Remy Emsco Dr.
診療科目：眼科
Lalsingh Adella Dr.
住所：Jeremie St. Box 375
電話：452-4433
診療科目：皮膚科
Camps Michael Dr.
住所：Obste Gynaec
電話：452-4261
診療科目：産婦人科
Fleming Svl Dr. Wm Peter
住所：Blvd. Castries
電話：452-3575
診療科目：産婦人科
Marius H. Dr.
住所：Gynaec 16 Coral St.
電話：452-2115
診療科目：産婦人科
Glacekent Dr.
住所：51 Micoud St. Box 861
電話：452-3840
診療科目：歯科
Long Aemina Dr.
住所：44 Micoud St. Box 1446
電話：452-6096
診療科目：歯科
Samuel D. Erancis Dr.
住所：Micoud St.
電話：453-7292
診療科目：歯科
Sinson Stephen P. Dr.
住所：Louis St.
電話：452-3820
診療科目：歯科

前記のほか、カストリーズ市内には24の病院がある。

開業医の何人かは欧米系である。入院施設を有する病院は総合病院のほかは数が少なく、治療内容によってはより大きな病院に移される。邦人企業の人は病気治療には必ずアメリカまで出かけている。

保険制度はいちおう確立されてはいるが強制ではなく、加入者は非常に少なくて、大半の人が治療費を全額負担している。入院費、その他の費用について見積もりが必要な場合は、直接窓口で聞けば予算書を出してくれる。

(2) 緊急時の対応と措置

救急車の呼出しは電話999番で、敏速に行動してくれる。収容先は国立総合病院となる。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

通常の場合であればＪＩＣＡから支給される医薬品一式でほぼ間に合うが、子供がいる場合は追加予備薬として下痢止め薬、目薬、解熱剤、虫ささされ薬など、また打撲時の手当てとしてサロンパスなどを携行するとよい。個々に常備薬が必要であれば、携行する方が望ましい。

(2) 任国で調達できる医薬品

医薬分業のため、医師の処方せんがないと法定指定薬の購入はむずかしい。薬局では薬剤師がすべてをとりしきっており、大型店になるとたとえ目薬ひとつでも医師の処方せんなしでは入手不可能である。反面、小型店ではある程度融通はきくが、薬剤の種類および在庫が少ない。

医薬品の種類は多いとはいえず、医師が指定した薬を購入できない場合もあるので予備薬の携行は多めに持参することが望ましい。

(3) 任国で調達できる衛生用品

衛生用品は、薬局やスーパーなどで買うことができる。ほとんど欧米製品で、現地調達で十分間に合う。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

一般的に投薬を含め薬は強いものが使用される傾向がある。しかし、医師の治療において薬の副作用を恐れて自分勝手な調節をすると、地方によって異なる菌やウイルスにより、さらには環境の違いなどで症状が長引かないとも限らないので、十分留意する。また、診察の際に詳しく症状を伝えることはもちろんであるが、自分の持つアレルギー体質や胃弱性などを忘れずに伝えること。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

設備の整った大きな病院を選ぶほうがよい。一般に技術レベルは高いといわれている。

定期検診は日本と同じく月１～２回で、９ヵ月に入ると月２～３回、10ヵ月からは毎週となる。かかりつけの病院が開業産婦人科医で、異常分娩が予想される場合は早めに医師の系列病院に回され安全策がとられる。したがって、早生児出産、流産、帝王切開などへの対応は非常に早い。また、妊娠中には必ず一般的な健康診断、

子宮がんの検査を行なうのが普通である。

(2) 出産後の対応

総合病院の場合、出産後は担当の産婦人科医にみてもらうが、新生児は小児科の担当となる。

現地の習慣として男児は割礼、女児は耳にピアス用の穴をあけるが、望まない場合は前もって伝えること。

予防接種は生後早い時期にＢＣＧを受け、出生届の後３ヵ月ごとに疱瘡(天然瘡)および３種混合の接種を３年間続けることが義務づけられている。予防接種カードは、全員所持することになる。

(3) 育　児

育児用品はほとんど現地で調達できるが、暑さ対策、害虫や蚊予防策は大切である。肌着などは木綿製品もいちおう手に入るが、日本から持参した方がよい。

ミルクや哺乳瓶はアメリカ製品が出回っているのでそれほど神経質になることはないが、衛生用品の収納ボックスはないので持参するとよい。

4-5 手　　術

(1) 任国で可能な手術

該当情報なし。

(2) 手術設備の状況

該当情報なし。

(3) その他の留意点

該当情報なし。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

小さな島国なので、大都市のような空気の汚染による病気はない。昼夜の気温の差が激しいこともあり、寝冷えによってかぜをひいたり、また蚊にさされて熱病にかかることはある。飲料水が衛生管理が不十分なので、下痢症状を起こすことも多い。

そのほか観光シーズンは急激に人の出入りが多くなり、外部から持ち込まれる熱病や百日咳などにも要注意である。この季節は雨も少なく空気も乾燥するので、帰宅したらうがいをする、目薬をさすなども予防のひとつとなる。

また、日射病などには非常にかかりやすいので注意すること。

(2) 風土病・伝染病

特にとりあげるべき伝染病はないが、肝炎にかかってアメリカまで治療に出かけた日本人もいる。下痢は食べ物・飲み物によるもの、熱病が原因のものなどさまざまであるが、いちばんかかりやすい。携行している下痢止めなど日本製の薬で簡単に治療できる軽い症状だが、風土病に近いものと理解すべきである。

そのほか流行性の皮膚炎などもあるが、医師の指示に従って治療すれば完治する。狂犬病については、かまれた例は多いが狂犬病にかかったという話は聞いていない。病院ではワクチン接種の態勢ができているが、番犬に飼う家庭が多く、ほとんどは放し飼いに近い状態なので十分注意しなければならない。

(3) 有害動物、病害虫

身近には蚊、ハエ、ネズミ、ブヨなどが多いが、毒グモ、サソリ、ムカデなどはやぶのなかや山林に入らなければほとんどみられない。野山に出かけるようなことがあれば、服装や靴などに気をつける必要がある。

セント・ルシアの観光ではダイビングによるサンゴ礁探検コースも人気のひとつなので、海ヘビ（毒ヘビ）などへの注意も心得ておかなければならない。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

飲料水には公共水道水と自家用のタンク（雨水をためてあるもの）の2種類があり、大半の家庭がタンクの水は飲料用、水道水は洗濯、シャワーなどと使い分けている。しかし、タンク設備のない家では水道水だけで生活している。市衛生局がときどき消毒を行なっていると聞くが完全なものではなく、雨季などは泥水に近い赤茶色の水が出る。したがって、ミネラルウォーターを多量に買い求め、衛生的な水を生活飲料とすることが適切である。

ホテルやレストランなどで出される水は消毒の行き届いたものを使っているが、少しでもにおいがある場合は避けるべきである。家庭内でやむを得ず水道水を利用する場合は、必ず浄水器にかけ沸騰させたものを利用すること。当地では水対策は不可欠で、十分注意することである。

(2) 濾過器の入手法

アメリカ製品がほとんどであるが、特定の店でのみ販売している。高性能の日本製品を携行することが望ましい。

(3) その他の留意点

汗をかいて1日に何回も下着を取り替える生活が、1年中続くとみてよい。クーラーのある家は寝る前に窓を閉めて温度調節をしてゆっくり休めるが、ない家では夜間窓を開けることになるので、暑さのほか蚊に悩むことになる。このような家では、蚊帳の準備、また扇風機が必需品となる。蚊取線香は、中国製品が出回っているが効力はほとんどないので、携行することが望ましい。

保健所では任意で寄生虫やアメーバ菌の検査を行なっているので、すすんで検便などの検査をするとよい。暑さのため食べ物も腐りやすく、食べ物によっては冷蔵庫内でも細菌が活動するので、サルモネラ菌、ブドウ状菌など食中毒には十分留意しなければならない。

救急車は市消防局管轄で24時間受け付けているので、いざという時は999番に電話して早く治療を受けることである。

5. 教　育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

教育制度はイギリスのシステムを採用している。5～9歳がInfant School、9～12歳がPrimary Schoolで、12～17歳がSenior Secondary Schoolである。大学は2年制で技術系のA Leveh College 1校のみであり、4年制を希望する人は系列大学のBarbados大学に転校し、さらに2年間追加授業を受ける。大学の専門コースは、Teacher Training、Technical Training、AgricultureTraining、Advance Training、Hotel Trainingの5コースである。義務教育は5～12歳で、原則として学費は有料である。

(2) 日本人学校

なし。

(3) 現地校、外国人学校

私立校は地方を含め複数設立されており、Infant School（7歳未満）およびPrimary Schoolがあり、宗教色が強い。授業料はカトリック登録信者の家族は無料であるが、一般の子女は有料となる。Primary School修了後は系列のSenior Secondary Schoolに進むが、私立校はカストリーズにSeven Day Academy School（12～17歳）1校だけである。大半の生徒は公立校に通うことになる。

(4) 幼稚園

3～5歳児対象の保育園、幼稚園はすべて私立である。カストリーズの主な外国人受入先は、次のとおりである。

Happy Vale Montessori Pre School
Aunty Punky's Montessori Pre School
Saint Joseph Convent Pre School
Tapion Pre School
Wee Wisdom Montessori Pre School

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

なし。

(2) 現地校、外国人学校

Infant School、Primary School、Senior Secondary Schoolともに公立校への入学は政府教育省（電話：452-2476）へ申し込む。

外国人の場合は、在籍していた学校からの転校証明を申請書に添付すればよい。公立校は地方にも多く開設されているので、居住区によって学校を選ぶことができる。

Primary Schoolを卒業してSenior Secondary Schoolに進学するには入学テストがある。テストに失敗すればPrimary延長3年制に進むのが一般的である。

カストリーズ市内にあるSenior Secondary Schoolは、Convent（女子校、男子校がそれぞれ1校）、Leon Hess Comprehensive School、Castries Hess Comprehensive School、Corinth Secondary School、Choc Secondary Schoolの6校である。

地方では、Dennery地区に1校、Micoud地区に1校、Vieux Fort地区に2校、

Shoiseul地区に1校、Soufrier地区に1校の計6校ある。

1校当たりの児童数は100～150人が限度で、申し込みは早い方がよい。生徒はInfant SchoolからSenior Secondary Schoolまで学校単位で制服が異なる。また、本や教材の購入先を学校側で指定する場合があるので、制服などとあわせて確認すること。

授業料など年間平均経費（1992年8月現在）は次の通りである。

幼稚部	登録料・授業料：240ＥＣドル
	本代：200～400ＥＣドル
	教材費：200ＥＣドル
	制服代：150ＥＣドル
	ＰＴＡ費：なし
小学部	登録料・授業料：80ＥＣドル
	本代：400ＥＣドル
	教材費：180ＥＣドル
	制服代：180ＥＣドル
	バス代：80ＥＣドル
	ＰＴＡ費：なし
中学・高校部	登録料・授業料：80ＥＣドル
	本代：500ＥＣドル
	教材費：180ＥＣドル
	制服代：180ＥＣドル
	バス代：80ＥＣドル
	ＰＴＡ費：20ＥＣドル

（注） 小学部、中学・高校部の制服代は年3着分の料金である。

給食費は全額負担となっている。週5日制で、夏休みは2ヵ月、各学期末に2～3週間の休みがある。最近は日本と同じように塾に通う子供も多く、勉学熱はますます高まる傾向がある。

(3) 幼稚園

該当情報なし。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

カストリーズ市内に1館あるが、日本語の教材やそれに類するコーナーはない。

(2) スポーツ施設

主要ホテルにある会員制施設に入会すれば水泳、テニス、ボディービルの健康器具の使用、ゴルフなどもできる。特に希望があれば、インストラクターを頼むことも可能である。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

語学、数学、ピアノなどの家庭教師は少なくない。欧米人教育者が中心であり、

決めた日、時間に先生の家に行く方法と、家まで出張してもらう方法とがあるが、出張の場合は教師数が少なくなる。平均して週２～３回が普通で、１回当たり１～２時間、費用は先生の家まで行く場合で１時間当たり30ＥＣドル、出張してもらうとガソリン代として10ＥＣドルが加算される。料金は当地の水準からみて、けっして安くない。

(2) 通信教育

日本人子女の場合は語学に力を入れざるを得ないため、ほかの課目がどうしても遅れてしまいがちである。そのため、通信教育が必要になる。赴任前にどんなものがあるかよく調べ、準備を整えることが望ましい。特に小学生を同伴する場合は、将来的なことまで考えるとぜひ必要と思われる。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

学年に合わせた教科書、参考書、問題集、辞書などは特に必要である。

学用品は日本のように種類は多くないが、現地調達で間に合わせようとすればできる。しかし、使いやすさや品質を考えれば使い慣れたものの方がよい。したがって、鉛筆、下敷、もの差し、コンパス、分度器、サインペン、筆入れなどは日本製の方がよい。また、日本独特のそろばん、折り紙、毛筆などは現地で調達できないので持参しなければならない。そのほか、運動用具類、楽器など使い慣れたものをできるだけ持参するとよい。

6. 家庭の使用人

6-1 運転手

(1) 雇　用

要人、高官、会社組織の場合は専門の運転手を雇っているが、一般には各自が運転している。平均賃金は1ヵ月1,000～1,200ＥＣドルで、遠距離通勤の場合はバス代を別途支払っている。

(2) 日常管理

該当情報なし。

(3) 教育指導

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-2 メイド／サーバント

(1) 仕事の種類と人数

メイドの仕事は一般的には掃除、洗濯、アイロンかけ、皿洗い、子守で、なかには料理も任せる家庭もある。近年は極端に経済活動が活発な反面、労賃が物価に追いつかないためにほとんどの家庭が夫婦共働きに変わっている。したがって、育児専用に雇う家庭も少なくない。

(2) 雇　用

雇用方法は、信用のおける人を介するか、または家主に相談して紹介してもらう。契約は口頭で決めるのが普通で、正式な契約書などによらない。週２～３回が標準で、たとえメイド部屋があっても毎日働く場合を除き、ほかの家庭でも働けるため通いの方を好む。

メイドの平均賃金は週３日で１ヵ月400～450ＥＣドル、育児専用の場合もほぼ同額が標準である。また、日割平均の標準は35ＥＣドルと目安をつけておけばよい。そのほか、誕生日に特別ボーナスを出すか、大型休日にボーナスを出すかが普通であり、昇給、超過勤務手当などはケースバイケースとすればよい。食事は家庭によって異なるが、昼食はだいたい出している。試用期間はほぼ1ヵ月である。

(3) 日常管理

現金や貴重品は日頃から厳重に管理する。家の鍵を預けるようなことは慎むこと。仕事のうえで問題点があれば、徐々に指導する。

6-3 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇　用

庭の草刈りは広さにもよるが、150坪程度で150ＥＣドルが相場である。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

市内での交通手段はマイクロバスかタクシーで、不定期ながらバス路線数は多い。しかし、通勤や移動には自分で運転するのがもっとも安全で時間的にも早い。通勤時の7:00～9:00、帰宅時の16:00～18:00がいちばん混雑する時間帯である。交通渋滞に巻き込まれると15分で移動できる距離であっても1時間かかることもしばしばで、空港などへ定時に移動する場合は必ず余裕を持つことである。

市内圏バス――マイクロバスがほとんどで、発着地はバスだまりのGremieSt.裏側である。行き先はバスに明記されていない。客がいっぱいになるといつでも発車する。途中で乗車する場合は、停留所がないこともあるが都合のよい場所で待てばどこでも乗車できる。下車する場合も声をかければどこでも停車してくれるので、目的地は必ず覚えておく必要がある。料金は市内で1ＥＣドル、いちばん遠い路線のビューフォート間で6ＥＣドルである。

タクシー――流しのタクシーはなく、市内のたまり場かホテルに常時待機しているので、利用するのに面倒なことはない。メーターがないので、乗る前に必ず料金を確かめること。料金は市内で15～20ＥＣドルである。

空路――国が小さいので、国内航空便はない。東カリブ諸島全体をひとつの地域としてとらえており、島と島を結ぶルートは、Liat Air (The Caribbean Air Line)、Martinique Airの2社が多く運行している。ヨーロッパ線は英国航空およびＢＷＩＡの2社が、北米路線はアメリカン航空、カナダ航空、ＢＷＩＡの3社が運行している。

(2) 自家用車を利用する場合

市内の道路は一方通行区域が多いので、道路標識には常に注意する。また、車の幅いっぱいの狭いところも多く、運転には細心の注意を要する。市内のいたるところに駐車しているので、買い出しなどで街中に出かける場合、駐車スペースを探すのに苦労する。いったん市外に出ると、山越えの道路に変わり、急坂、急カーブで運転未熟者には骨の折れるドライブとなる。したがって、道路事情を含めて交通環境に慣れたうえで運転することが望ましい。

割り込み、追い越し、車間距離をおかないなど、ドライバーの運転マナーは悪い。したがって、運転の際は前方および後続車にも常に気を配り、右折、左折の場合などは早めにスピードを落とし、ウインカーサインもできるだけ早く出すことが追突されない予防策のひとつとなる。

車を運転する場合は、免許証、保険証書のコピーを必ず持っていること。保険制度は強制で、取締りの時などは警察当局は免許証よりむしろ保険証書の方に関心を寄せる。保険の加入または切り替えは忘れずに行なうこと。

車の故障の際は、専門の出張修理サービス組織がないので、最寄りの修理工場などに直接依頼するしかない。地方などでは、通りがかりの車や通行人に聞けば親切に教えてくれる。

(3) レンタカーなどを利用する場合

レンタカーは空港、ホテル、大型ガソリンスタンドなどで受け付けている。レンタル料は普通乗用車の場合で、保険料込みで1日100ＥＣドルで、銀行クレジットがあれば簡単に貸してくれる。主なレンタカー会社は、次のとおりである。

AVIS
住所：Box 1010, Castries
TEL：452-2700
Inter-island
住所：12 Trinity Church Rd., Castries
TEL：453-1086
STL Rent
TEL：452-0732
Saint Lucia Yacht Service
TEL：452-5057

そのほか、多くの代理店および系列の受付窓口があるので便利である。

(4) 道路地図

本屋、スーパーマーケット、路上の売店で入手できるが、「Visitors Guide」誌にも詳しい地図が掲載されているので観光案内とあわせ便利である。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

事故原因の統計をみると、飲酒運転による追突、無理な追い越し、スピードの出し過ぎが上位を占めている。事故に巻き込まれた場合には、現場がどんなに込み合っていても事故車は警察がかけつけるまでそのままの状態にしておくことが、後の事故処理に役立つ。まずは冷静さを失わず、たとえ加害者であっても静かに待つことが必要である。事故後は速やかに保険会社に手続をとり、交渉は保険会社に任せるとよい。

セント・ルシアには保険をかけていない車は1台もないので、人身事故でなければ事後処理は比較的スムーズにすむ。従って、軽い接触事故であっても相手の出方次第では警察を呼ぶことが正しい解決となるので、面倒などと考えないことである。

(2) 救急病院

人身事故の場合は救急車を呼ぶ（電話999）が、自分もけがをしている時などは、貴重品、車の管理はかけつけた取締り警官にゆだねる。救急病院は国立総合病院1ヵ所であるが、手当て後、ほかのかかりつけの医師がいればそちらに行けばよい。

(3) 盗　難

車の盗難事件は過去に例がないが、タイヤや窓ガラス、冷房機、ステレオなどの盗難は比較的多く発生している。この種の盗難はたとえドアロックが確実であっても予防策はむずかしい。自宅ではガレージのドアを忘れずに閉める、郊外ではできるだけ人通りの少ない場所に駐車しないなどの配慮が必要となる。スーパーなどに買物に出かけ、駐車場に車を入れてドアロックをかけ忘れた時、車内においてある荷物、貴重品が盗まれる事件が多発しているので注意が肝要である。部品などの盗

難にあった時は、速やかに盗難届を警察に出すことである。内容によっては、保険でカバーできることもある。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

日本と同じく左側通行である。しかし、信号機が少なく右折、左折時道路標識がみえにくい場所が多い。また狭い市内では一方通行区域も多く設けられているので、あらかじめ道路規制区域を頭に入れておくとよい。

車検制度はない。保険は強制なので、加入手続、切り替えは速やかに行なうこと。無事故であれば、2年目の保険は大幅に掛け金が減額となる。

(2) 対処方法

白バイやパトロールカーは定期的に巡回しているが、スピード違反や駐車違反の摘発には無関心で、免許証や保険加入の有無をチェックする程度である。もし検査対象の証書を持っていない場合は、警官の指示に従ってできるだけ早く指定された窓口に出頭すること。万一、交通違反などで捕まった場合は違反金を支払うことになるが、これも指定された窓口に指定期間内に支払うこと。違反の内容次第では、日本と同じように免許証に記載されることもある。

7-4 車の修理

(1) 部　品

輸入車の比率は日本車80%、韓国車15%、その他5%と圧倒的に日本車が多い。各メーカーではひととおり部品を用意しているので、修理やメンテナンスは問題ない。しかし、年式の古い車は部品も違うことが多く、もし在庫がなければアメリカや日本からとり寄せることになる。部品のとり寄せ期間は、平均して2～3週間である。

(2) 修理工場

車の販売店は修理工場を持っているが、そのほかにも大小修理工場は多いので、どこの工場を選ぶかは自分の好みによる。どこの修理工場でも技術者のレベルは相当高く、技術面においては安心できる。

8. 通　信

8-1 電　話

(1) 一般事情

セント・ルシアの電話普及率は急激に伸びている。電話事情はよく、故障にあたってもサービス面はほぼ確立された状況にある。

架設申し込みは所定のフォームをもって電信電話局に申請するが、早ければ2週間以内で取り付けてくれる。

公衆電話はホテル、学校、空港や街角などに設置されているが、国際電話がかけられる公衆電話は電話局および空港などに限定され、台数は少ない。

(2) 国内電話

地方別にコード番号が設けられており、カストリーズの場合は電話番号の前に45がつき合計7桁の番号となる。

基本料金は1ヵ月25ＥＣドルで、そのほか通話料が加算される。通話料金は市内の場合、通話時間に関係なく1回27セント、市外の場合は1分間27セントと定められている。

(3) 国際電話

国際電話の料金は、交換手を経由した場合30～40%高くなる。日本への通話はBand Fにあたり、時間帯によるサービス料金はない。交換手を経由するとしないとでは1分間の料金差は2.4ＥＣドルになる。

国際電話の交換手呼出しは、115番である。日本へかける場合、現地との時差が13時間あることを考慮に入れること。

8-2 電　信

(1) テレックス

テレックス通信は年々減る一方である。一般に利用できるのは電信電話局またはホテルである。電信局のテレックスサービスコールを利用する場合、呼出しが611番で、料金は1分間Ａゾーンが1.5ＥＣドル、Ｂゾーンが3ＥＣドル、Ｃゾーン4.5ＥＣドル、Ｄゾーン6ＥＣドル、Ｅゾーン7.5ＥＣドル、Ｆゾーン9ＥＣドルである。

必要と思われる代理店およびホテルなどの番号および電略は、次のとおりである。

代理店

Carabash Tours Ltd.
電話：6221　　電略：CALTOURS

Carib Touring Ltd.
電話：6329　　電略：CARITOUR

Tourist International
電話：6242　　電略：TOURSINTL

ホテル

Cunard Hotel
電話：6320　　電略：LATOCHOL

Halycon Beach Club
電話：6342　　電略：HALCLUB

政　府

Government Information Service
電話：6272　　電略：DISATTER

Ministry of Foreign Affairs
電話：394　　電略：FORAFF

Transport & Handling Service Ltd.
電話：6273　　電略：TRANSPORT

(2) ファクシミリ

普及率は高く、法人、団体、一般の会社などほとんどが設置している。

(3) 電　報

該当情報なし。

8-3 郵　便

(1) 一般事情

日本からの通常郵便物（手紙、印刷物）は、平均して2週間かかる。私書箱を持たない家庭は、勤め先の住所か大家の住所番号を借りることになる。配達制度がないので、定期的に私書箱を持つ代表者がとりに行くことになる。郵便小包の場合は、中央郵便局内にある税関カウンターより通知があるので、受取書を持って窓口に行き本人立会いのうえ中身を点検し引き渡される。

書留封書については、現地から発送する書留封書は日本を含めて確実に届いているが、当地あてに関しては中央郵便局より通知が届かないことがたびたびある。

(2) 課　税

カメラ、時計が20%、衣類が25%、トランジスタラジオ、ビデオカメラ、テレビが30%、パソコン、コンピューターが20%などである。ただし、これは商業として輸入した場合で、個人で携行した場合には課税されない。

9. マスコミ

9-1 新　聞

(1) 主な日刊紙

新聞は、次の４種がある。

「The Voice of St. Lucia」　火・木・土曜日発売

「The Crusader」　木曜日発売

「The Vangaurd」　木曜日発売

「The Star」　木曜日発売

なかでも週３回発刊の「The Voice of St. Lucia」は、政治面も多く人気のある情報紙である。新聞はスーパーや商店または路上売店などで買うことができ、料金は50セントである。

(2) 本邦日刊紙

セント・ルシアでは入手できない。また定期的な通信販売の手続窓口もない。したがって、新聞・雑誌類の購入については日本で手続をすませなければならない。新聞の場合、約２週間遅れで届く。

(3) 欧米紙

欧米紙は、数は少ないが書店やスーパーなどで求めることができる。通信販売の場合は雑誌、娯楽書、スポーツなど種類も多く、地元のあっせん業者が取り次いでくれる。取次窓口は、次のとおりである。

Book Salon (AF Valmont & Co. Ltd.)

住所：CNR Jeminie & Laborie St.

TEL：452-3817

Sunshine Book Shop

住所：13 Brazil St.

TEL：452-3222

平均して発刊から１週間遅れで入手できる。料金は書物によるが、週刊誌で１ヵ月95ドル（手数料込み）である。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラジオ局は１局あり、主にニュース、音楽などを中心に商業放送している。

(2) ラジオジャパン

南米ギアナを中継（周波数9586メガヘルツ）するものが聞きとりやすいが、出力が弱いので混信しやすい。放送時間帯は少なく、6:00～7:00、18:00～19:00の２回である。

性能のよいラジオを持参すれば、北米または中南米向け放送を直接受信できる。周波数やプログラムは、ＮＨＫ国際局出版の『ラジオ日本』を参考にするとよい。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

アメリカ、カナダ、中南米諸国の放送が入ってくる。ＦＭ放送は周波数の違いにより日本のラジオで聴ける局は限定されるので、聴きたい人は周波数の幅のあるものを持参するとよい。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

テレビ局は民放のHelen Television System（HTS）１局で、チャンネルは２と４である。チャンネル４は主に国内ニュース、アメリカのケーブルテレビＣＮＮを、チャンネル２は娯楽番組、映画、子供向け番組およびケーブルテレビＮＢＣ、ＡＢＣ放送を直接また録画で放映している。民営局なので、ＣＭ時間割りが多い。

ケーブルテレビは早朝から深夜まで放映し、近隣のマルティニクやバルバドス放送を加えるとチャンネル数は９となる。ケーブルテレビの月額料金は45ＥＣドルである。アメリカのテレビは世界情勢、国際ニュースなど詳細に放送するので、ＮＨＫのラジオジャパンと併用すれば非常に参考になる。

(2) テレビ受信

テレビ受像機は日本と同じ方式であるが電圧が異なるので、日本製の110ボルトのテレビを持参する場合は変圧器が必要になる。最近の輸出向けテレビはスイッチひとつで簡単に110ボルト、220ボルトと切り替えることができるものが多いが、日本から持参する場合はあらかじめメーカーと相談するとよい。

現地ではアメリカ製品や韓国製品が多く、性能はまずまずである。価格は日本よりやや高い程度で、手間や通関のことを考えると現地で買う方が得策である。

なお、テレビガイドについては、ケーブルテレビ局で1ヵ月分プリントしたプログラムを無料で入手できる。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1　映画、演劇、

(1)　映画館

ない。

(2)　劇　場

ない。

10-2　出版・書籍

(1)　一般事情

独自の出版物は4種類の新聞のほか宗教系の情報刊行程度で、書店などにあるものはアメリカやイギリスからの輸入洋書が多い。

(2)　書　店

該当情報なし。

10-3　語学学習

(1)　語学学習施設

会話はパトア語と英語の2つを使い分けており、学校での授業は英語である。しかし、低学年児童では英語力に差があり、個人教授を受けている子供が多い。公の語学学習のための施設はないが、個人レベルで英語、フランス語、スペイン語を教える人は少なくない。

(2)　家庭教師

家庭教師には欧米出身者または現地教師の内職者がいる。ほとんどが自分の家に生徒を集め週2～3回の指導を行なっているが、特別頼めば出張してくれる先生もいる。授業料は時間給30ＥＣドルが普通で、出張してもらう場合はガソリン代として10ＥＣドルが追加となる。家庭教師をみつけるのは、口コミが多い。

10-4　文化活動、文化施設

(1)　一般事情

カルチャーセンターは市内に2ヵ所あり、市の行事または団体の行事など多目的に利用されている。民芸や盆栽の展示、集会、講座、音楽会などが催されることもある。カルチャーセンターで催しがある場合には、路上での張り幕やラジオ放送でＰＲするのが普通である。

市内の主な文化的名所はコロンブス公園、独立公園の2ヵ所であり、市民の憩いの場となっている。博物館や美術館はない。

(2)　日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

日本人が数人しか在留していないので、友好関係を発展させるのはこれからである。現在は、欧米婦人会（通称モーニングコーヒー会）に参加して、貧困層生徒への教材支援、重症でお金もなく手術も受けられない子供に対する協力、老人介護、身障者学園への定期的な支援などの活動をしている。

(3)　その他の文化活動、文化施設

該当情報なし。

10-5　写真、ビデオ

(1)　写　真

フィルムはコダック1種類のみで、どこでも売っている。値段は36枚撮りで19.5ＥＣドルである。ＤＰＥ店は市内に4ヵ所あり、早いところでは1時間で現像、焼き付けをする。料金は日本とほぼ同じである。標準サイズは、10センチ×12センチである。

カメラおよび機材の種類は少ないので、日本から持参する方がよい。

(2)　ビデオセット

人気の高い商品だが、個人でビデオを持つ人は少なく、市販されている機種や数も少ない。日本のメーカーは人気が高く、優れた機能を有しているので、日本から持参するにこしたことはない。セント・ルシアはＶＨＳシステムなので、ベータ方式は持参しないこと。予備フィルムもできるだけ多く持参するとよい。

貸ビデオ店は数軒あり、アメリカ製記録フィルムまたは映画などが主体のためで、英語版である。

(3)　ミュージックテープ

ミュージックテープは現地製品ではカリビアンソング、輸入品ではアメリカンミュージックが人気商品である。露店などで売っているテープはほとんど海賊盤なので、注意すること。

10-6　音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1)　音楽会、コンサート

アメリカ方面で活躍する現地グループまたは中南米オーケストラの音楽会やコンサートが2～3ヵ月に1回平均で開かれる。会場はカルチャーセンターか野外で、ほとんどロック調のコンサートが主体である。

(2)　コーラス、演奏グループ

宗教団体グループや仲間同士が集まって結成したグループがある。このような会に参加するには身近な人に紹介してもらうとよい。なお、特別な音楽教室などはない。

(3)　ピアノなど

現地では調達できないので、欧米人は持参している。ピアノ教師の数は限られる。

(4)　レコード

カストリーズ市外サニーエーカー地区のショッピングモールに近代的なレコード店があり、アメリカからの輸入品など多数揃えている。また、市内のインド系の店などもレコード売場を設けている。

(5)　民族楽器

東カリブ全域の代表的な楽器は、ドラム缶を細工した型のドラムが有名で、音色もカリビアン音楽にマッチした楽しいものである。

(6)　その他の楽器

輸入楽器のドラムやエレクトーンが、民族楽器とあわせ盛んに利用されている。大半の演奏者は音楽学校で学んでおり、そのほかは海外で身につけている。

10-7　手芸、絵画、美術工芸

(1)　手　芸

手芸用材料は専門店も3軒あり、刺しゅう用の糸、小道具など大半が現地で調達できる。また、この種の本も多く売られている。

(2)　絵画、美術工芸

セント・ルシアの民族品は古典的な絵柄が多く、デザインも簡単なようで歴史を思い起こさせるすばらしいものである。木のモザイクも民族を表現するものが主体で、興味深い。

10-8　趣　　味

(1)　園　芸

園芸を趣味とする人口は多く、ときどき品評会も催されている。中流以上の家庭になると庭はもちろん、応接間にもところ狭しと盆栽を飾り立派なものである。

農水省園芸部では試験場を設け、常時15人のスタッフが苗木や庭木用の生産に励み品質のよいものを育て、注文があればデパートや商店に回している。草花のほか観賞用苗木も多く、街では肥料や盆栽用の土、容器など品数を多く揃えている。切り花や盆栽などは、いつでもスーパーなどで手軽に求めることができる。

(2)　釣　り

観光の売り物にスポーツフィッシングが加わっており、季節によっては豪快なトローリングも楽しめる。船宿はホテルでも紹介してくれるが、ロドニーベイに行くと船着き場は何ヵ所もある。利用する場合は早めに予約をとることが望ましい。磯釣りは岩場が険しいので、一般には適当でなく、底物のタイ釣りなど釣り船で出かけるとよい。

釣り道具は釣り船で出かける場合は貸してくれるが、自分で用意する場合は船具店で求めればよい。

10-9　娯楽、遊戯など

(1)　娯楽、遊戯、ゲーム

リゾートホテルであれば、マリンスポーツの準備はできており、セーリングやボートもインストラクターがついてサービスは行き届いている。そのほか、ダイビングコース（サンゴ礁めぐり）、カストリーズから日帰りの遊覧船の旅コースとしてソフリー湯元見学などが人気が高い。

(2)　芸能興行

該当情報なし。

10-10 スポーツ

(1)　ゴルフ

Cunard Hotel 経営のゴルフ場と Cap Esteat ゴルフ場（カストリーズより約39キロメートル北）がある。どちらもハーフコースで、Cap Esteat の方が雄大である。ビジターの受入れはない（日本人はCap Esteatの会員になる方を好む）。会員の年会費は、Cunard Hotel はシングル会員の場合 600 ＥＣドル、Cap Esteat は 500 ＥＣドルである。会員になるとグリーン・フィーは必要なく、キャディー・フィーのみでよい。ちなみに、キャディー・フィーは、Cunard Hotel はハーフプレーで５ＥＣドル、

Cap Esteat は 10 E C ドルである。

Cunard Hotel の販売店を利用できるが、市内にはゴルフ専門店はない。用具の輸入先はアメリカであるが、品数は少ないので日本から持参するか、アメリカ方面から購入してくるとよい。

(2) テニス

テニスクラブも少数あるが、外国人の場合は Cunard Hotel の会員制クラブを利用する人が多い。ここは、ゴルフを含めテニス、健康器具（ボディービル）の 3 部門会員として年会費をシングルで 1,200 E C ドル支払えば、いつでも自由に利用できる。

(3) 水　泳

リゾートホテルにはほとんどプールが設備されており、一流ホテルになれば 2～3 のプールを有しているものも少なくない。プールの水は淡水で衛生面も行き届いている。

海水浴場としては、海岸に面したホテルでは専用ビーチを持ち、カストリーズ近郊、または北側のロドニーベイ方面に行けばカリブ海の海流に直接洗われる美しく広い海水浴場がある。

(4) その他のスポーツ、用具、ウエア

近年特にサッカー熱が高まり、女性グループの試合も盛んに行なわれている。そのほか、クリケットは伝統的なスポーツで、東カリブ諸国、また中南米諸国を含めた国際試合もたびたび催されている。

スポーツシャツ、ズボン、シューズなどの種類は少なく、割高である。

(5) スポーツクラブなど

該当情報なし。

10-11 子供の遊び

11. その他のサービス

11-1 金融機関

口座閉鎖に関して普通預金（通帳）と小切手帳とでは手続方法が大きく違う。小切手帳を作成している場合、切った小切手が全部銀行に回収されないと、銀行側で最終的な手続ができないことがあり、ケースによっては保証人を立て、口座を閉鎖することも必要となる。閉鎖手続きは早めに行うことが望ましい。

通常口座開設の場合、入金が外貨（米ドル）であっても自動的にECドルに変わって通帳に書き込まれるシステムになっている。また、残ったECドルは簡単に換金できないので、口座開設の際、普通口座のほかに外貨口座を別途開設しておくと便利である。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院

美容院やサロンは合計32店舗と急成長している。主なものは、次のとおりである。

1) SALON D' ELEGANCE
   住所：VICTORIA ST
   TEL：453-1757
2) SUZIE'S BEAUTY SALON
   住所：33 BRIDGE ST
   TEL：452-1680
3) MAG'S UNISEX HAIR CARE SHOPPECASA
   住所：VIGIE CASTRIES
   TEL：452-4096
4) MEL'S HAIR FASHIONS
   住所：8 CHAUSSEE RD.
   TEL：452-6816
5) MOOD & STYLE HAIR DRESSING SALON
   住所：8 MARY ANN ST
   TEL：452-2394

平均的な料金は、以下のとおりである。

1) RELAXCE & SET	EC$ 45-165
2) CURLS	90-120
3) STEAM & SET	25-30
4) WASH &SET	18-25
5) WEAVING	15-25
6) PERMS	60-65
7) CUT & WASH	25-30
8) HAIR COLOURING	40-45

以上紹介した美容院やサロンはほとんど現地女性を対象にしており、また技術面

においても黒人特有のカールヘア専門がほとんどである。従って外国人はホテル内の美容サロンの利用が多い。これらは予約制に近いので、あらかじめ電話で申し込むとよい。料金はセットで80〜120ECドル、パーマで200〜250ECドルが相場である。土・日曜日および祭日は休日となる。

理髪店も美容院同様、一流ホテル内のものを利用している。普通の調髪で50〜60ECドル程度である。

12. 観　光

12-1　地方旅行上の留意点

観光客を歓迎している国なので、外国人の国内旅行については規制や制限などは一切ない。ただ、旅行中にカードを使うのであれば、パスポートまたは身分証明書は携行した方がよい。

治安状態はよいとはいえない。スリ、置き引きに注意し、貴重品や現金は常識の範囲で留意することである。

12-2　主要観光地・保養地ガイド

温暖で自然に恵まれており、また大西洋とカリブ海に囲まれている立地条件が人気を集める要因になっている。島は小さいが、カリブ海側一帯は海が静かで避暑地として最高の条件を備えている。南部一帯はサンゴ礁めぐり、ソフリー地区は海岸線に接したピトン双子山の景観、そしてその山すそは温泉の吹き出る湯元などが名所である。

観光としては、スキューバダイビングでのサンゴ礁めぐり、カリブ海沿いの海の旅と温泉地めぐり、島内一周が主なコースである。そのほか、長期滞在者は宿泊を経済的なアパートやバンガローでのんびりと避暑を楽しむことになる。各観光案内や見どころについては、どこのホテルでも手軽に入手でき、またスペシャリストを配置しているので聞くとよい。Island Visions Ltd.（35 Jeremie St. Box 949　TEL 453-0472）が発行している観光ガイド「Visions」を参考にするとよい。

保養地として発展している地域は、カストリーズを中心にした近郊か、カリブ海側南部に面するソフリーおよびビューフォート方面となるが、いずれもリゾートホテルや短期貸し出しアパートを手軽に利用できる。

セント・ルシアにはこれといった特産品は少なく、土産品として取り上げるとすればハンドクラフト程度で、宝石、貴金属などはすべて輸入品である。しかし、これらの免税価格はアメリカ方面よりやや割安といわれている。

12-3　旅　行

(1)　自動車

幹線道路は単線なのでレンタカーを利用してのドライブにも迷うこともなく、道路案内標識もわかりやすく表示されている。

ガソリンスタンドはどこの部落に入っても必ず何軒かあるので、余裕をみて早めに給油するとよい。ガソリン代は1ガロン6.5ＥＣドルで、日本よりやや安い。

地方のドライブでは、部落ごとに山越え道路を通過することになる。特にカリブ海側の道路は極端な急坂、急カーブが多く、見通しの悪い場所があるので、安全運転を心がけることである。

(2)　バ　ス

市内バスターミナルから、北コース（ロドニーベイ方面）、西海岸コース（アンス・ラ・レイ方面）、東海岸コース（デナリー方面）の3コースに分かれているので乗車前に必ず行き先を確認すること。停留所は地方に行くほど未整備で、どこでも乗り降りできる。したがって、途中下車する人は事前に地名や場所を知っておく必要がある。

バスはほとんどがマイクロバスで、定員15人ぐらい、時刻表なしで運行している。料金は市内で1ＥＣドル、市外の場合でもいちばん遠距離コースで6ＥＣドルが上限となっている。マイクロバスの車内は狭く、込み合う時間帯などは身動きができない状態で、荷物のある人などはしっかり膝の上に乗せるなどの注意をすることである。

(3) 鉄　道

なし。

(4) 航空機

各島々（国）を結ぶ航空便は、Liat Air と Martinique Air の2社が多く運航しており便利である。遠距離便はアメリカン航空、カナダ航空、英国航空などが北米、欧州方面へ運航している。

空港は、小型機専用のVigie空港（カストリーズ市内）と大型機専用の Hewanorra 国際空港（ビュフォート）とがあり、どちらも国際空港なのでまちがわないよう自分のフライトを事前に確認すること。Hewanorra 国際空港とカストリーズ間は陸路で約50キロメートルあり、車で約1時間半かかる。ほとんど時刻通りに発着するので、出発する際は1時間前には必ずチェックインすること。

12-4　旅行代理店

航空券の予約、購入などは航空代理店、また旅行代理店でも扱っている。支払いは現地通貨、米ドル、あるいはトラベラーズチェックなどでも可能である。

代理店としては次の3社が推薦できる。ただし、日本語は通じない。

American Express Travel Service Rep.
住所：Hse Boubon St. Box 700, Castries
TEL：452-3131

Barnards Travel
住所：Micoud St. Box 169, Castries
TEL：452-2214、5、7、8　　FAX：453-1394

Carib Travel Agency
住所：20 Micoud St. Box 102, Castries
TEL：452-2151、3176　　FAX：451-8028

12-5　ホテルなど宿泊施設の手配

ホテルの予約は、個人レベルで直接電話やファックスで可能である。しかし、観光シーズンになるとどこのホテルも満杯の状態が続くのでトラブルも十分考慮しなければならない。したがって、予約などは旅行代理店に頼む方が無難である。ホテル事情はシーズン中とオフシーズンとでは極端に違い、料金もシーズン中は30～40％の値上げは普通である。また、予約をキャンセルする場合はキャンセル料が必要なので、代理店を通した場合は料金を確認して支払うことになる。前払いする必要性は少ないが、あらかじめ確認したほうがよい。

経費の支払い方法は、カードか現金かチェックインの時に必ず確認される。現金の場合は、一定額の前払いを要求されることもある。セント・ルシアで使える国際クレジットカードは、VISAカード、アメリカンエキスプレス、マスターカードの

ほかにも多い。トラベラーズチェックは、ホテル以外に買物などでも利用でき便利である。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

連絡先は、トリニダッド・トバゴの日本大使館（電話：01-622-5838　ファックス：01-622-0858）である。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

数年前までは日常生活でも開放的な暮らしができたが、今では盗難やひったくり事件は毎日のように発生し、日本人を含め外国人は標的になっている。今後、治安がよくなる材料は見当たらないので十分注意しなければならない。

(2) 防犯対策

借家の場合は、まず周辺の環境がさびしくないか、防犯設備が行き届いているかなど十分確認することである。また、先住者のいたアパートを借りる場合は全面新しい鍵に交換するくらいの心得が必要で、さらに二重、三重の内鍵設備は常識となっている。そのほか、夜間の照明、緊急時の近所との連絡方法、警察への通報もあらかじめ心得えておくことは不可欠な要素である。

夜間のひとり歩きにはきまって事故が発生しているので、十分注意しなければならない。外出に際しては、派手な服装や装飾品などは極力控えめにして、余分なお金は持たないことが自己防衛手段ともなる。

(3) 被害時の心得

危害が及ばないよう、抵抗しないこと。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

火災の原因は不明だが、毎日消防車の出動がある。

特に大西洋岸の地域では、大型台風の直撃を受け大きな被害を受けたことがある。海岸沿いは高波の危険があることを、常に認識しておく必要がある。

(2) 防災対策

停電や断水はしばしばあるので、ろうそく、懐中電灯、予備電池、ポリタンク、バケツは必需品である。また、食糧も常備品として缶詰、飲料水（ミネラルウォーター）などはいつも備えておくこと。近所の人もいざという時必ず力になってくれるので、ふだんから近所付き合いを怠らないこと。

(3) 被災時の心得

該当情報なし。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

大型ジェット機離着機能を持つHEWANORRA国際空港（ビューフォート）と小型機専用のVIGIE空港（カストリーズ市内）がある。

(2) 入国手続書類

一般的には入国専用カードとパスポートの提示であるが、近頃は不法滞在または不法就労を防止するために帰国チケットの有無を確認されることがあるので、予め用意する必要がある。

(3) 入国審査

一般的に入国目的が観光であれば手続きは寛大であるが、ビジネスが目的であるとVISAの有無からチケットの確認、更に質問も多くなる。また、JICA長期専門家などは赴任に当たって片道チケットで入国することが多いが、この様な場合は赴任前に現地政府に通知し、確認をとる必要がある。

(4) 税関検査

麻薬と拳銃所持の有無、酒や煙草の数量確認など、近隣諸国からの行商も多いことから、ケースによっては厳しく検査されることもある。

(5) 空港内での留意点

該当情報なし。

(6) 空港からのトランスポーテーション

両空港ともに乗り合いバスの就航は無く、一般的にはホテルからの出迎えバスを利用するか、タクシー、ハイヤー、レンタカーの利用となる。HEWANORRA国際空港の場合は島の南端に位置しているので、北側のカストリーズに移動するには平均1.5時間はかかる。また、市内が混雑する時間帯などは目的地まで1時間以上オーバーすることもあるので、特に帰りの陸路移動には余裕を持って行動するとよい。ちなみに、HEWANORRA国際空港からカストリーズ市までのタクシー及びハイヤー料金は、常識的に35USドルが目安である。

(7) その他の留意点

該当情報なし。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

両空港ともに出国手続きカウンターは航空会社別に区分されているので、手続き上場所に迷うことはない。ただ、出国に際し従来の空港使用税の他に、1994年度から新しくセキュリティチャージなる税が加算されることになり、双方あわせて35ECドルの支払いが必要となる。

(2) 出国手続上の留意点

該当情報なし。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

JICA関係では携行機材などの残リスト受け渡しなどが重要である。

事務所を借り上げている場合は住居借用と同様、家主と文書契約を交しているので、契約内容に則って手続をすすめる。

(2) 車の処分

時間的余裕をもって売りに出すことが必要である。売却価格の目安を知るため最寄りのカーセールスマンなどに依頼して査定価格を調べるのも一方法である。「FOR SALE」の貼り紙に電話番号を記して自動車の後部ガラス窓に貼っておくのが一般的なPR方法であるが、その他職場や友人また知人を介して買い手を探すのもよい。

売却対象者の選定においては現金支払い能力があるかどうかを見極めることが大切である。あとは引き渡し期日、支払い方法などを取り決めて完了となる。また、保険は対物を基本として法の上で強制制度をとっている。よって売却時に何か月分かの残保険があるが、この場合は契約者と保険会社の間で処理されるもので、新しいオーナーとの間に関係は生じない。よって売却後は速やかに保険会社で手続きをとるとよい。

(3) 家財道具の処分

金銭に引き替えるのであれば友人や知人を介して相手を紹介してもらうことも可能だが、一般にはパーティーなどの場を利用して複数の希望者を探すことが多い。また、子どもの教科書や参考書あるいは衣類などは教会関係のボランティアに寄付するのもよい。

当国からの海上輸送は太平洋線及び大西洋線のどちらを選んでも、ほとんどが米国マイアミ経由を基点としている。マイアミの輸送業者との関係、また途中積替え時に紛失の保証ができないため、段ボールのバラ荷物は受け付けておらず、コンテナ契約に限定されている。従って船便の利用には難点がある。

航空輸送はいかなる荷物も引き受けてくれ、発送荷物さえ指示すればインボイス作成、保険加入に至るまで行ってくれる。輸送料金はキロ当たり、手数料込みで2,000円以上となる。

郵便小包は最大10キログラムまで（サイズの上限は3×3×3）で、料金は1Kgまで62ECドル、1～3 Kgが135ECドル、3～5 Kgが196.55ECドルである。

日本までの輸送日数は航空貨物同様、約2週間がめどとなっている。

(4) 住宅の明け渡し

家主との契約条件によって多少の違いはあるが、通常の場合、契約満了あるいは多少の日時調整希望があっても満期日2カ月前に家主に相談する。そして住居の明け渡し日もしっかり取り決め、事前準備を整えること。

明け渡し前の作業は電気、電話、ガス、水道をそれぞれの局に手続きし、最終日のメーターチェックをどうするか確認する。電気契約の場合は契約時に保障金として2,000ECドルを積み立てているのが一般的である。これは契約満了と同時に戻ってくるたてまえになっているので、手続きには多少のゆとりが必要である。また、家具付き契約の場合はベッド、ソファー、テーブルなどの破損はないか、ナベ、釜、食器の数量はどうかを調べ、不足の場合は立て替えることになる。

(5) 外貨持出し規制

ECドルは簡単に外貨に換金できない。ECドルが残った場合は、外貨換金手段として過去の入金証明を整理して銀行窓口に提示してみること。米ドルに換金できるケースもある。できるだけ出国前に換金対策を講じることをすすめる。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

市内には多数の輸送業者があるが、代表的なものは次のとおりである。

1. Ninvielle and Chastanet Ltd
   住所：Box 99 Bridge St. Castries
   TEL：452-2811　　FAX：452-2810/3623
2. Bornard Sons Co., Ltd
   住所：Box 169 Bridge St. Castries
   TEL：452-2216　　FAX：453-1394
3. Max Shipping Ltd
   住所：Box 1339 Mongiraud St..Castries
   TEL：452-2536/453-1537　　FAX：452-3442
4. Tropical Shipping Co., Ltd
   住所：16 Micoud St. Castries
   TEL：452-1010/452-1089　　FAX：452-1091
5. Mendes Shipping Co., Ltd
   住所：Box 1440 Cadet St. Castries
   TEL：452-1364/452-6168　　FAX：453-1654

(2) 輸入手続

船便貨物の場合は船の入港日程に大きなずれが生じ易く、個人単位でコンテナー船入港からインボイスなど必要書類を準備するのは大変な作業である。よって最寄りの業者に依頼することが望ましい。この際貨物発送時のインボイスは必ず手元に準備しておくこと。

空港貨物の場合は、2つの空港どちらに到着しても行先がカストリーズとなっていればVIGIE空港貨物室に収納されるので、個人としても荷物の到着など問い合わせが容易である。また荷物引き出し手続きも簡単にすむので業者に依頼するまでもない。ただし、荷物到着後、日数経過にともなって荷物保管料を徴収されることに留意する。ちなみにアメリカン航空は2日、LIAT Airは4日の猶予で以後、1キログラム/10.4ECドル×日数の支払いが必要となる。

(3) 家財道具の購入

市内にはM＆C専門店、AMERICAN DRY WALLのほか中小店舗が軒を並べている。家具には輸入品と当国品があり、商品の種類も比較的多く揃っている。当国品では竹を材料としたテーブル類や椅子、ソファーなどが人気の高い。輸入品の応接3点セットや高級品では2000ECドルぐらいである。

15-2 自動車

(1) 一般状況

車社会はピークに達しているが、道路交通、駐車設備などが立ち遅れている。それでもなお、購買力は高くこれからの公害の恐れもある。

(2) 輸入手続

一般輸入品と同じくFOB価格など船出港からの輸出証明書が揃っていれば手続きはスムーズである。輸入税は乗用車、トラックの別なく新車の場合で79.5%がかかる。その他引き出しまでの手数料（ハンドリングチャージを含む）として500～700ECドルがかかる。

(3) 任国での購入

市場のシェアをみると日本車が全体の75%を占め、韓国車（現代）が15%、その他10%となっている。日本車ではトヨタ、ニッサン、マツダ、ホンダ、三菱、ダイハツ、イスズなどいずれのメーカーも人気は高い。

1994年11月現在の市販価格は急激な円高によって92年に比べて20%近く上昇している。

自家用車1800cc ホンダ車の場合

マニュアル　5.5万ECドル

オート　7.6万ECドル

トラック・ダブルキャビン4WD　2600cc マツダ車の場合

マニュアル　5.5万ECドル

オート　6.0万ECドル

トラック・シングル1.5トン　1600cc 三菱の場合

マニュアル　4.3万ECドル

韓国車は価格が10%程度日本車より安い関係でシェアの伸びは徐々に上昇傾向にある。中古車においても年々市場に出回る数が増え、近頃は中古車専門店も開店し、以前にも増して購入し易くなっている。価格は比較的高い水準で取り引きしており、車種によっては新車に近い値段も少なくない。しかし、事故車が多いのでできれば車に詳しい人に下見してもらうことをすすめる。

(4) 自動車登録

契約が成立すれば、販売店側で必要な手続はすべて整えてくれる。普通車や小型トラックの場合、登録料として500ＥＣドルかかる。

(5) 免許証取得

セント・ルシアでは国際免許証があれば自由に運転できる。また国際免許証を持たずに赴任する場合は、日本の免許証を持参するとよい。現地の免許に切り替える場合、公安局の所定の申請書に日本の免許証を添付すれば、簡単な道路標識指導だけで手続が終わる。

免許がない人や運転が未熟な人は自動車教習所がないので、友達か知り合いの人に運転を指導してもらい、そのうえで公安局に申請すれば、用意された試乗車で検査官立会いのもとで路上テストを行なうことができる。実技に合格すれば次は簡単な道路標識の質問テストとなり、合格と認定されれば数日後免許証が発給される。

(6) 保険、税金

カストリーズ市内にある主な保険会社は、次のとおりである。

Bergasse JE & Co. Ltd.

TEL：452-2351

Lloyds Agency (Minvielle & Chastanet Ltd.)
TEL：452-2811
Saint Lucia Motor & General Insurance Co. Ltd.
TEL：452-3323

保険料は保険会社によって多少の差はあるが、普通車（新車）の場合、対物保険が主となっており 4,000～ 5,200 ＥＣドルである。これは、強制保険でもある。

税金は車両価格に含まれているので、別途支払う必要はない。

16. 社　交

16-1　風俗習慣

該当情報なし。

16-2　パーティでの留意点

結婚、誕生日、祝日などのパーティは招待状の発送から準備がはじめられるので、出欠の態度ははっきり示さなければならない。服装についてもはっきりフォーマルかカジュアルかを示すのが普通であり、フォーマルの場合は男性は黒または紺系統のスーツ、女性はパーティドレスで装うのが一般的である。

16-3　来客時の留意点

極く親しい友人の集いなどでは飲食より話が主であるが、日本人であれば日本的なメニューでもてなすと大変喜ばれるので、はし、茶碗などもできるだけ備えておきたいものである。場所の表示には、家の500m手前あたりから道路上に（本道路を除く）スプレーで方向を示す矢印を書くことが多い。また、傾斜地に建った家が多いためで室内には段差が多いので、来客を迎えるごとに必ず注意すべき場所を説明すること。できれば危険箇所にマットや椅子、小テーブルなどを置くのもよい一方法である。特に子ども連れの来客には十分注意したいものである。

16-4　訪問時の留意点

パーティへの参加は夫婦同伴が普通である。時間については、外国人はできるだけ時間を守る。

16-5　禁止されている言動

常識の範囲から脱しないことである。

17. 任国官公庁

次のような閣僚がいる。

1. Honourable Prime Minister
   Minister For Finance, Planning and Development
2. Deputy Prime Minister
   Minister For Foreign Affairs, Home Affairs
   Trade, Industry and Caricom Affairs
3. Minister For Tourism, Public Utilities, National Mobilization and Civil Aviation
4. Minister For Education, Culture and Labour
5. Minister For Agriculture, land's Forestry and Fisheries
6. Minister For Community Development Social Affairs, Co-operatives and Local Goverment
7. Minister of Helth, Information and Broadcasting
8. Minister For Communications, Works and Transport
9. Minister in the Ministry of Youth, Sports

18. 在外日本関係機関など

ない。

19. 地方都市

該当情報なし。

任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

［送付先］　〒162　東京都新宿区市谷本村町 10-5
国際協力事業団国際協力総合研修所
技術情報課　任国情報係

国　名		年　度	年版
氏　名		年　齢	歳 性別 男・女
利用区分	所属 (担当) 部課名	指導科目	派遣期間
JICA 役職員			
JICA 専門家等			
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)
住　所			
電話番号		日　付	年　月　日

ページ	行	内　容

国　総　研　記　入　欄					
記事		技術情報課確認印			
		データベース修正処理	課　長	代　理	担　当
		月　日	月　日	月　日	月　日

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるＪＩＣＡ長期派遣専門家、ＪＩＣＡ職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。なお、政府技術協力のために赴任するＪＩＣＡ役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はＪＩＣＡの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイタスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、ＪＩＣＡ図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

ーーーーアジア地域ーーーー
1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア
（ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、メダン）
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレイシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ（バンコク、チェンマイ、コンケン）
18. ヴィエトナム

ーーーー中近東地域ーーーー
1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ（アンカラ、イスタンブール）
15. アラブ首長国連邦（ﾄﾞﾊﾞｲ、ｱﾌﾞﾀﾞﾋﾞ、ｱﾙｱｲﾝ）
16. イエメン（ｻﾅｱ）

ーーーー太平洋地域ーーーー
1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア

ーーーー欧州地域ーーーー
1. カザフスタン
2. キルギスタン
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー

ーーーーアフリカ地域ーーーー
1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エティオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. コートジボアール
11. ケニア
12. リベリア
13. マダガスカル（アンタナナリボ、ディエゴ・スアレス）
14. マラウイ
15. モーリシァス
16. モザンビーク
17. ニジェール
18. ナイジェリア
19. ルワンダ
20. サントメ・プリンシペ
21. セネガル
22. セイシェル
23. ソマリア
24. タンザニア（ダルエスサラーム、ザンジバル）
25. トーゴー
26. ザイール
27. ザンビア
28. ジンバブエ
29. スワジランド
30. ボツワナ

ーーーー中南米地域ーーーー
1. アルゼンティン
2. ボリヴィア（ラ・パス、サンタクルス）
3. ブラジル（ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、ポルトアレグレ、ベレーン）
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グァテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグァイ（ｱｽﾝｼｵﾝ、ｴﾝｶﾙﾅｼｵﾝ）
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダッド・トバゴ
18. ウルグァイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア

「任国情報（セント・ルシア）１９９５年版」
平成７年３月２０日発行
編集・発行所　国際協力事業団　国際協力総合研修所
〒162 東京都新宿区市谷本村町10番５号
電話　(03) 3269-2357
編集協力　　財団法人　日本国際協力センター